

令和5年度 府中市立南町小学校 学校経営報告

校長 島田 文江

1 教育目標及びめざす学校像、教師像

(1) 教育目標

- ① たくましい子（重点目標）
- ② 思いやりのある子
- ③ 努力する子

(2) めざす学校像

- ① 児童の確かな学力・体力を育てる学校
- ② 児童の豊かな心を育てる学校
- ③ 児童がチャレンジできる環境の整った学校

(3) めざす教師像

- ① 心身ともに健康である教師
- ② 児童に愛情を注ぎ、児童の成長のために努力する、自己の職務に誇りをもつ教師
- ③ 自己の将来に希望をもち、教職員同士切磋琢磨しながら真摯に学ぶ教師

2 教育目標を実現するための中長期的な目標と方策（5年目）

22世紀を見ることになる児童の育成にあたり令和の学びを推進する。そのために全ての児童が人格の完成に向け、ふるさと府中に誇りをもち、知性や感性を磨き、豊かな人間性を備え、心身ともに健康に成長していくことを目指す。

【学校の教育目標と、達成を目指す能力と資質】

- ◎たくましい子：運動習慣と生活習慣、学習習慣の見直しを図る。（笑顔：実践力）
- 思いやりのある子：縦割り班活動や行事を通し人同士の関りを学ぶ。（あいさつ：人間関係形成力）
- 努力する子：“見通し、ふりかえり”を行い、個や共通の願いを叶える。（チャレンジ：問題解決力）

(1) たくましい子「笑顔」・・・学校を、児童が登校を楽しみにする場になるようにする

- ① 運動に親しみ、自ら健康を促進する。
- ② 読書量を増やし、語彙を豊かにする。

(2) 思いやりのある子「思いやり」・・・互いに認め合える関係性を作る。

- ① コミュニケーションを図る方法を身に付ける。
- ② 異年齢集団、異校種間の交流を通して仲間づくりをする。

(3) 努力する子「チャレンジ精神」・・・日常的にチャレンジできる場を設定する。

- ① 個別にゴールを見通し、チャレンジし、課題を達成する。
- ② 学級や学校のゴールを見通し、チャレンジし、課題を達成する。

3 教育活動に取り組んだ結果 成果が十分あった項目＝○ 課題を残す項目＝▼と表記 (1) たくましい子「笑顔」の実現のために

学習の基盤といわれる言語能力や情報活用能力の育成に重点を置いた。

学力向上委員会及び図書委員会の読書倍増計画を継続した。

体育健康教育推進校として授業改善と運動の日常化を図った。運動やスポーツとの多様の関わり方を通して、健康で活力に満ちた生活をデザインすることができるようにした。

① 基礎的・基本的な知識と技能を習得するための取組

○3年生以上にデジタルと紙の百科事典の指導を実施し検索した情報の根拠を示すようにした。

○外国語や生活・文化について学んだことを、インドネシア私立校の子供との対面交流に活かした。

○家庭学習等でデジタルブックを読む児童が増え、15ヵ月で1人平均4,220ページ読んだ。

▼低学年の算数少人数指導を3学期から開始し基礎基本の習得を図り新学年の少人数指導に備えた。

② 思考力・判断力・表現力を育成する取組

○全学年でプログラミング学習に取り組み、論理的思考と表現の工夫を行った。

○各種行事では、全教職員の連携の下、実行委員を募り子供たちの主体的な活動を支援できた。

○“水”をテーマに、地域から得た知見を様々な手法で表現し、Web博物館として共有できた。

○ゲストティーチャーと対面し、直接話を聞くことを通して話の内容を聞き取る力を育てた。

○Webや本を調べて学んだことを生活の場で生かす経験を多く取り入れた。

▼自分の言動を客観的に見て、自らの課題を解決する方法を選んで使うことには課題が残った。

③ SDGsの対象となる様々な目標への取組

○第6学年児童が、地域のラジオ番組で、マイクロプラスチックの環境汚染について発表した。

○第6学年児童が、発展的な学習の日(10/28)に登校し、地域の避難訓練に参加した。

▼既存の学習をSDGsとして再認識し、学習をつなげ深めることには課題が残った。

▼持続可能な社会の実現を目標に、意識は変わったが日々の行動に移すことは難しかった。

④ 学力向上と心身の健康の増進を図る取組

○体育科の研究授業を、低学年, 中学年, 高学年, 特別支援学級が実施し、児童の健康を促進できた。

○はけ上までの避難訓練・遠足・宿泊学習では、歩くことを推奨し、体力の向上を図ることができた。

○“南チャレエクササイズ”で運動の習慣化を図る。“南スポーツ”で今月の遊びを実施できた。

○6月から9月まで水泳指導と、ロープチャレンジ等、多様な関りを通して健康に生活できた。

○体力テストの結果を分析して体力づくりの環境を整備し、日常的な遊びや体育の指導に生かした。

⑤ 望ましい生活習慣の確立を図る取組

○児童のアレルギー反応についての確実に保護者と共有し、安全な給食を実施できた。

○第3学年が学ぶ地域の野菜づくり、全校児童で学ぶ稲作を通して全校体制で食育を学んだ。

○年3回の「アレルギー対応訓練」の実施および、リーフレットの内容確認を行った。

▼専門性を備えた外部人材から指導を受け、健康的な生活スタイルの確立を図ることに課題が残った。

(2) 思いやりのある子「明るいあいさつ」の実現のために

本校の特色の一つに特別活動の充実がある。6年生にあこがれる低学年が、自分たちの学年や学級でも自立・自律を目指すことができるように、リーダーシップとフォロアーシップを見たり体験したりすることで学ばせたいと考えた。児童に分かりやすいように「一番優しい学校づくり」を目指した。いじめ、不登校、特別支援教育に関しては、保護者と信頼関係を築き、面談を週単位、月単位で定期的に実施し、児童や保護者の立場でその解決や推進に努めた。

① 規範意識の定着

- 南町小学校のきまりである「心響かせ学び合う南っ子」を学校と家庭の両方で活用した。
- 三中学校区の3つの小・中学校で、共通の授業規律「みそあじじ」「語先後礼」の徹底を図った。
- 生活時程と内容の見直しの一つとして、登校時間と昇降口を全学年で統一した。
- ▼言葉遣いと持ち物の整理整頓については、今後も重点生活目標の一つとして地域や家庭と共有する。

② 不登校児童、遅刻の多い児童への指導の強化

- 特別支援コーディネーターが、管理職・SC・ひばり教員と共に「校内委員会」で対策をとった。
- 担任は管理職と連携し、学校と家庭の連携支援員による電話相談・家庭訪問・面談を実施した。

③ いじめの未然防止、早期発見、早期解決

- 全教職員の協力の下、日常的な児童観察、児童理解に努め、軽微ないじめも見逃さないようにした。
- 毎週月曜日の生活指導夕会で、全教職員によって情報を共有し、見守りや指導を行った。
- 年間3回の「フレンドリーアンケート」を実施し、未然防止・早期発見・早期対応に努めた。
- ▼学校サポートチームや地域住民に、見守りや声かけ等の支援を依頼した。

④ 児童の思いやりや感動する心を育む。

- 児童の言動を細かく観察し、思いやりのある言動を認め、肯定的な言葉で児童の行動を強化した。
- 授業や行事において多様な考えを引き出し、認め合い一人一人の違いを受け入れる指導を実施した。
- ▼児童自身に、言動を振り返り、改善点を考えさせる指導を実施したが、十分ではなかった。

⑤ 道徳科で他者と伝え合い、自己の生き方について考えを深める。

- “相手の立場を考えて、思いやりをもって行動する子供の育成”を道徳教育の重点項目とした。
- 対話や議論などの指導方法を工夫し、「考える道徳」「議論する道徳」への質的な転換を図った。
- 9/30に道徳授業地区公開講座を実施し落語の人情噺を通して地域や親子で生命尊重を学んだ。

⑥ 特別支援教育の充実を図る。

- 特別支援教室「ひばり」を、朝会や学校だよりで周知し、児童や保護者の理解を深めた。
- 特別支援教室や特別支援学級「仲よし」への転学は、保護者や児童に十分な説明を行った。
- 障害のある児童を受け入れ、協力し助け合い、違いを認める学級経営を推進した。
- ▼障害のある児童への「特別な支援」がすべての児童への支援につながることを学校中で認識した。

(3) 努力する子（「チャレンジ精神」）の実現のために

“できた、分かった、伸びた”ことの見える化をより一層図る。そのために各分掌が分掌同士、横のつながりをもち、その都度、必要なチームとなって目標の達成に努めた。児童と教員の両者とも、自己調整能力と個別最適化の手法を、自立と自律、個別最適な学びと協働の学びとして目指した。

本校は、今年度から2年間にわたって、東京都の体育健康教育推進校の指定を受けている。そのため児童の体力向上と、教員の指導力の向上を目指した活動の全てがチャレンジになった。入学時に幼児教育との架け橋をつなぎ、遊びを学びとし、学んだことを在学中及び卒業時に専門的なスポーツにつなげるとともに、生涯にわたって健康に生きる力を身に付けさせるようにした。

① チャレンジのための環境整備

☆タブレットの日常化

- タブレットを使った方が理解の深まる児童には、常時、使用を認める。
- ▼授業中はタブレットを机の傍らに置きルールとマナーを守りながらいつでも使えるようにした。
- ▼タブレットの使用で、ルールとマナーが守られない場合には、その都度ルールの再確認を行った。
- 各学期に一度ずつ発達段階毎にセーフティ教室を実施し、保護者と共に情報モラルを学ぶ場とした。
- 教員自ら、組織的にICTの日常化を図り、ICTの活用についてOJT形式で学び合った。
- 児童がスキルとモラルを十分に学んだ上で、WEB博物館に児童が作成したコンテンツを展示した。

☆読書活動の推進

- 始業前の10分に担任も児童と共に黙って読書をすることを推奨した。ビブリオバトルを実施した。
- デジタル読書とデジタル百科事典を活用し、読書と調べ学習を推進した。
- 学期に1回ずつ読書旬間を設け、ボランティアや図書委員会の児童と共に読書活動を推進した。
- ▼読書ボランティアや図書委員会によるおすすめ本の紹介の周知を行い、不読率0を目指した。

② 学年・学級経営の充実

- 発達段階に応じた児童の自主性や協調性を育成し、家庭と連携した学年・学級経営を実施した。
- 毎月、30分間の学年主任会で学年間の情報交換をする。
- 学力・体力・ICTのOJT研修を通し、各教科や領域の授業改善と人材育成を行った。
- ロープチャレンジや漢字検定等、学級や学年で協同・協働してチャレンジすることができた。
- 個別最適な学習を実践するために、個別の指導計画を立てて授業することができた。
- ▼学年主任のリーダーシップの下、家庭学習の内容、指導状況を学年で共有し指導を行った。

③ 地域・保護者との連携

- WEB博物館に、各学年・学級とも学期に1本、作品を展示することができた。
- 地域の防災担当や市の防災課と共に行う5/1の避難訓練を基に、第6学年の防災学習につなげた。
- 5/1、2年、4年、6年の児童がはけ上まで避難訓練し、残った学年も座学で防災について学んだ。
- おやじの会に、学校の顔である“緑の島”の環境整備を定期的にお願ひできた。

④ 教員の働き方改革

- 管理職がイクボス宣言をし、子育て・介護中の教員も能力を発揮した働き方ができるようにした。
- 漢字検定合格という目標を定め、地域ボランティア「漢字応援団」に、指導の支援をお願いした。
- 夕方6時以降、翌朝7時半までは学校は留守電とした。欠席連絡はスマート連絡帳で受けた。
- ▼プラスバンドとタグラグビーの部活化を図り、練習に地域のボランティアの支援を受けた。